

講演Ⅱ

順応的な環境ガバナンスのあり方を求めて

北海道大学大学院文学研究科・教授

宮内 泰介



2019年3月9日
里山大学里山学研究所シンポジウム「SDGsと里山モデル〜持続可能な社会に向けて〜」

順応的な環境ガバナンスのあり方を
求めて

北海道大学大学院文学研究科・教授
宮内 泰介
環境社会学

なぜ環境保全はうまくいかないのだろうか？



HOKKAIDO UNIVERSITY

なぜ環境保全はうまくいかないのか

よいとされる手法

科学的な知見を積み重ねる
→ステークホルダー(利害関係者)が集まって合意形成

しかし！

実際にはうまくいかない。

1. 環境保全が何かは立場や視点によって違ってくる
2. グローバルな価値とローカルな価値のズレ

HOKKAIDO UNIVERSITY

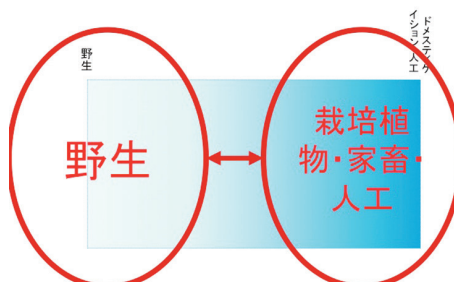
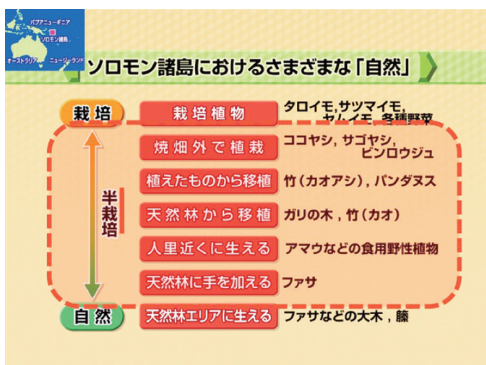
環境保全におけるズレ

力の違いが不均衡なところでこうしたズレが存在する場合には、それは暴力にすらなる。

- アフリカ・タンザニアの国立公園(ムコマジ国立公園):
・「私たちは力づくで移動させられた。家も焼かれ、道路に放り出された」。あるいは追い出されないにしても、その地での生業が困難になった住民が多い(Brockington, 2002)。
- 「自然保護難民(conservation refugee)」
・中央アフリカだけで10万人と推計(Cernia and Schmidt-Soltan, 2006)。



HOKKAIDO UNIVERSITY





なぜ環境保全はうまくいかないのか

よいとされる手法

科学的な知見を積み重ねる
→ステークホルダー(利害関係者)が集まって合意形成

しかし！

実際にはうまくいかない。

1. 環境保全が何かは立場や視点によって違ってくる
2. グローバルな価値とローカルな価値のズレ
3. 科学の不確実性

HOKKAIDO UNIVERSITY

科学の不確実性

- 北海道におけるアザラン管理計画の事例
 - ゴマフアザランが増えて漁業被害が増えているので減らそうという計画
 - アザランは増えている？ 減っている？
 - 漁業被害はある？ ない？



小林万里さん(東京農業大学)のスライドより

HOKKAIDO UNIVERSITY

科学的な解、絶対的な解はない

↓
多様なステークホルダーが集まって
合意形成した結果が解(社会的解)

合意形成

HOKKAIDO UNIVERSITY

しかし、
合意形成は難しい

HOKKAIDO UNIVERSITY

うまくいかない協議会方式

ある都市近郊林の保全活動



- 関心をもった地域住民
- 町内会
- 行政
- 自然保護団体

HOKKAIDO UNIVERSITY

協議会方式の「合意形成」がうまくいかないのは、何が忘れられているからか

単純化された「社会」
と
ホントの社会

HOKKAIDO UNIVERSITY

合意形成はなぜ難しいのか？

- 合意形成は難しい
 - 誰が話し合いに加わるべきなのか？
 - 話し合いで決めたことに対する異論をどう扱うか？
 - 話し合いのテーマは誰が決めるのか？
 - 合意形成は「話し合う」ことで済むのか？
 - 「合意」とは一体何を指すのか？



- 合意とは、多角的なコミュニケーションに基づく納得
- 合意形成とは、納得へ向けた多角的なプロセスの束

HOKKAIDO UNIVERSITY

なぜ環境保全はうまくいかないのか

よいとされる手法

科学的な知見を積み重ねる
→ステークホルダー(利害関係者)が集まって合意形成

しかし！

実際にはうまくいかない。

1. 環境保全が何かは立場や視点によって違ってくる
 2. グローバルな価値とローカルな価値のズレ
 3. 科学の不確実性
 4. 合意形成の難しさ
- 社会も自然も複雑であり、かつダイナミックに動いている

HOKKAIDO UNIVERSITY

1. 環境保全が何かは立場や視点によって違ってくる
2. グローバルな価値とローカルな価値のズレ
3. 科学の不確実性
4. 合意形成の難しさ

社会も自然も複雑であり、かつダイナミックに動いている

不確実性や変化を前提として環境保全を進める必要。試行錯誤の柔軟なプロセスが重要。

順応性(adaptability)が鍵！

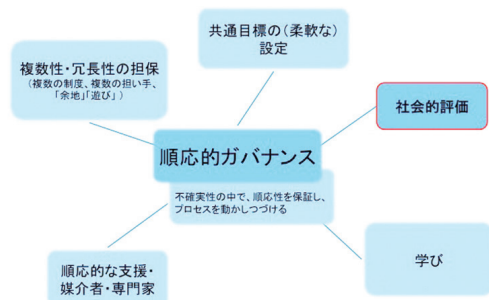
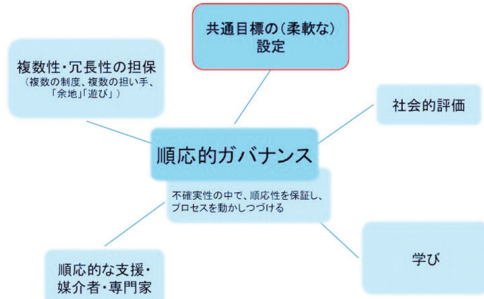
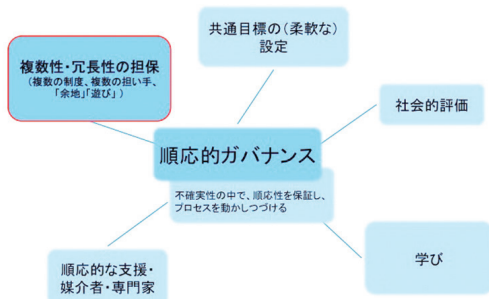
順応的ガバナンス(adaptive governance)
＝環境保全や自然資源管理のための社会的しくみ、制度、価値を、その地域ごと、その時代ごとに順応的に変化させながら試行錯誤していく、柔軟性をもったプロセス重視のガバナンスのしくみ



順応性(adaptability)が鍵！

しかし、順応性はやっかい(に見える)

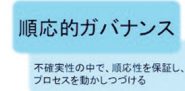
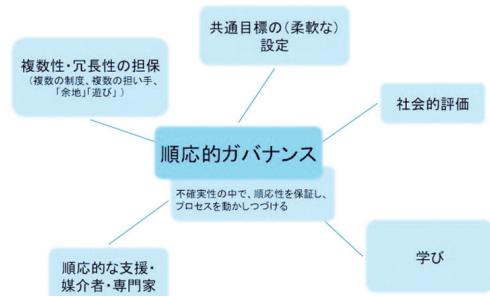
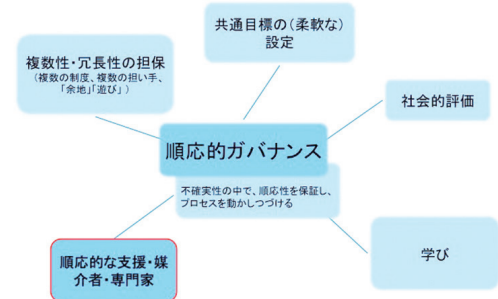
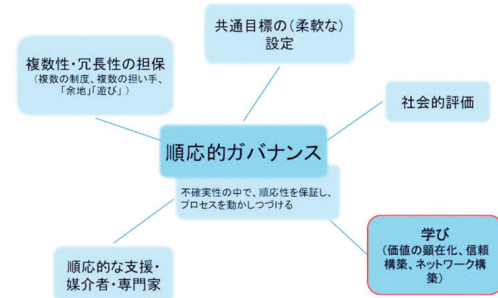
どうすれば順応性を保ちながらプロセスを動かしていけるか？



社会的評価シート(Ver.2)

(金沢大学・菊地直樹さんのスライドより)

	評価項目	評価項目の内容	具体的な内容
問題		何が課題であるかを集合的に認識するプロセス	
人	かわっている人たち	「自然再生」を目的に行動する主体	
	人たちのつながり	アクターたちのつながりの状況	
	集まる場	多様な主体が情報やサービスを交換する、主に非物理的な場	
	意思決定の仕組み	目標を共有し、利用可能な手段群の中から特定の手段を選択するための仕組み	
技術と行動	自然再生を行うためのノウハウ(社会技術)	自然再生を社会的に実装として進めるように変換する技術	
	具体的な行動	自然再生に関わる具体的な行動	
	自然再生の技術	自然に介入する技術(社会的ハンドリング可能性)	
知識と評価	知識	ある事業に関する認識・理解の内容及び方法	
	評価	主に外部からの評価、アクターが感じている楽しさ・充実感	



社会にはそもそも順応性が備わっている

順応的な環境ガバナンスのあり方を求めて

ご清聴ありがとうございました。

北海道大学
宮内泰介

miyauchi@let.hokudai.ac.jp
http://tamiyauchi.jimdo.com/

「順応的なガバナンス」は、多様な主体の参加、共通目標の(柔軟な)設定、権威性・実効性の担保、順応的な支援・機会含み・専門性、社会の評価、社会の発展、学びの相互作用で構成されています。